

おりもの 八王子織物

八王子は織物の産地として古くから知られていました。八王子周辺の村では、江戸時代えどじだいの中ごろから養蚕ようさんがさかんで、生糸きいとや絹織物きぬおりものがつくられてきました。これは、おもに農家の女の人の大切な仕事しごとでした。八王子宿では毎月4と8の日に市が開かれ江戸時代の中ころから織物が取引の中心となりました。周辺の村で織られ、八王子に集めて出荷された織物が「八王子織物」と呼ばれたのです。八王子織物の特徴は、糸を染めてから織る先染めの絹織物であること、男物や実用の着物地が中心であることです。

現在は、着物を着る人が少なくなったため、ネクタイなどの生産が中心になっています。

織物ができるまで

- ① かいこを育てます。(養蚕)
かいこは、くわの葉を食べて育ちます。
4回だっぴ脱皮して、大きくなったかいこは糸をはいてまゆを作ります。
- ② まゆから糸をとります。(製糸せいし)
まゆを熱湯ねっとうでにて、引き出します。
- ③ 糸をよります。(ねん糸)
まゆからとった糸は、とても細いので何本かまとめて強い糸を作ります。
- ④ よった糸から不純物ふじゆんぶつをとりのぞきます。
- ⑤ 糸を染めます。(染色せんしよく)
- ⑥ 糸を強くします。(のりづけ)
糸が切れたり、けばだったりしないように、のりづけをします。
- ⑦ 布を織ります。
はたおり機にたて糸をかけ、たて糸に交互によこ糸をくぐらせま
す。



糸とりのようす
(昭和7年～8年ころ)



機おり (高機でおっているところ)